こぶし通信

Vol 36
2013.2

理事長コラム
2013年の新しい年を迎えて
こぶしの会は?

就労移行支援　すたぁと
「誇りある仕事」

就労継続B型　ここに
冬から春へ

受賞おめでとう!
きょうされんカレンダー入選

こッからの商品が買えるお店
福祉カフェ「鹿都」
ご寄贈

横木さんからのお手紙

居宅支援
ふゅーちゃー「忘年会」

日中活動支援
パン工房の新聞作り

第11回 こッから祭

Information

編集後記

Column

2013年の新しい年を迎えてこぶしの会は？

社会福祉法人こぶしの会　理事長　　藤井　正紀

昨年はこぶしの会創立10周年を迎えた節目のある年でした。この10年間、こっから以外の多くの事業を手がけ、それらを着実に運営し、社会福祉法人こぶしの会としても大きく発展させることができました。今後は、この事業や法人運営を障害者のために活用、充実させ、さらなる信頼を得られるようにすることが求められます。そこで現時点で、今後に（2014年頃まで）、検討を要する課題について述べておきます。

まず第一は、こぶしの会の事業の問題です。来年度から「ここに」を中心に弁当の配食事業を開始し、今後「こっから」の食堂を事業として経営することの是非を検討します。これは東市地域は老人世帯が多く弁当や買い物の依頼などが増えることを考えてのことです。またこっからの食堂を事業化にすることにより、障害者の雇用や仕事を増やすことを目的としています。その他こぶしの会の店を市内中心部に持ちたいと考えています。

第二は、仲間の工賃アップ、旅行やスポーツなどの行事の充実、仲間が企画、運営するなど仲間自身の活動を促す自治活動などの問題です。「仲間が主人公」の思想をこぶしの会の中に具体化し、「こっから」の各班、「ここに」「すたぁと」「ひまわり」「ぐうぐうハウス」「かたつむり」の活動の中に、世話役やリーダーを置き、障害も考慮しながらみんなで作り上げ、そのための資金作りなども検討します。

第三は、仲間の生活や暮らしのあり方の検討です。現在、家族と一緒に暮らしている仲間、ケアホームで暮らしている仲間、日中一時など居宅支援を利用しながら暮らしている仲間がいますが、今後、家族の高齢化が進むにつれどのような生活をするのかが大きな問題になります。この問題は、こぶしの会の問題ですが、仲間や家族や兄弟の問題でもあります。今年に入ってこぶしの会で購入を予定していた東市地区のグループホーム用の土地が地域住民の反対にあい購入を断念しました。こぶしの会としては２例目の反対でした。今後こぶしの会としてもグループホームの建設は難しいことになるでしょう。国としては障害者の入所施設は建てない、現在ある入所施設は地域のグループホームへ移行するというのが国の方針ですが、地域での反対で地域にグループホームができないということになり、こぶしの会の仲間の将来について真剣に考えなければなりません。

こぶしの会として、この状態を切り開くために検討しますが、家族の中でもよく話し合っておいて下さい。特に、家族やお知り合いのなかに土地や家屋を活用してグループホームを運営したい人の紹介なども必要です。また同時に、仲間の経済的基盤の問題も考えておかなければなりません。障害者自立支援法の施行の際、利用者負担問題がおこり、20歳以上の仲間の家族の皆さんには「家族の扶養親族にせずになるべく世帯分離をしよう」と呼びかけましたが、改めてこの問題が大切です。また仲間の障害者年金、賃金などは仲間の所得として扱い、できるだけ仲間の金銭的管理や運営を明確にし、後見人制度などを活用することも必要です。こぶしの会としても、家族や兄弟の方々との懇談会や学習会を行たいと思っております。

Column

就労移行 News

Work support すたあと

「誇りある仕事」

すたぁとの隣にあるハトムギ健康食品の会社「太陽食品」さんは、すたぁと開所以来様々な面で、ご協力いただいています。こッから祭りでご協賛を頂いたり、ハトムギ祭りや、もちつき大会にお誘いいただいたり…。横田にある広大な畑にハトムギの種まきをお手伝いに行ったこともありました。昨年からは、ダイレクトメールの住所の書かれたシールを貼ったり、チラシを封入する仕事を太陽食品さんの会社の一室をお借りして取り組んでいます。また、年末にはお得意様に配布されるカレンダーを袋に入れて箱に丁寧に詰めるお仕事も頂きました。

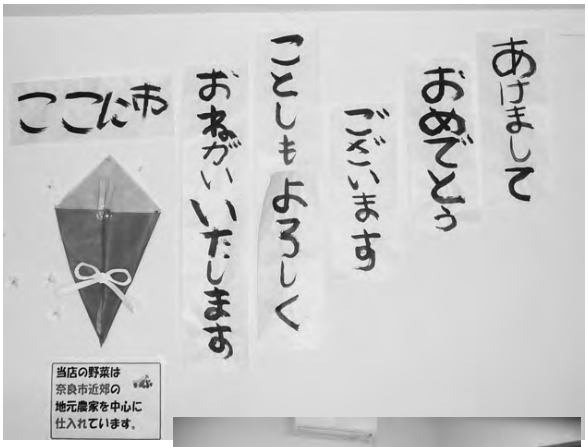
さて、2013年。仲間を中心にして地域を大切に。そんなこぶしの会の理念が育つよういろいろな企業との協働を通して「誇りある仕事」を作っていきたいと思います。

（島　耕治）

就労継続B News

Starting work continuance B type ここに

冬から春へ



6月1日、ここには開所1周年を迎えました。開所式当日は雨でしたが、1年後のこの日は晴天。この1年で仲間も2名から7名に増えました。週1～2日だけや半日単位で利用する方、他の場所でも仕事をされている方がいるなど、色々な利用の仕方をされています。ここに市をはじめ、仕事も軌道に乗りつつあり、徐々に忙しい日が増えてきました。

1周年当日の朝会の時に、仲間代表から「これからも地域に貢献できるよう皆でがんばりましょう!」という頼もしい挨拶がありました。その後は皆で外食へ。

大和高田市にある「コッペ高田Ohisama Lunch」へ行きました。メイン料理以外はバイキングで食べ放題だったので、お腹いっぱい食べました。その後は、竹取公園や桃尾の滝へも行き、1日思いっきり楽しんできました。またこれから頑張って、来年2周年記念外出にも行きたいなぁ。

（新谷　和博）

※野菜やお米の配達承ります（主に水曜日）。近隣の方は無料。
お米は郵送も可（送料はご負担下さい）。
お問い合わせは、0742-31-2444まで

受賞　おめでとう！

中村博子さん　きょうされんカレンダー入賞

2013年1月6日 奈良新聞

障害者の力作 月替わり　きょうされんカレンダー

奈良・中村さんの作品も

きょうされん（旧称・共同作業所全国連絡会）が毎年制作している「はたらく仲間のうた」カレンダーが発売されている。収益は障害のある人の給料や活動に役立てられる。

全国の作業所・事業所などで活動する障害のある人たちから公募した作品を掲載。今回は1918点の応募作品から入賞した中村博子さん（64）＝奈良市＝の水彩画「富士の山」が10月のページを飾っている。中村さんは障害のある人の社会参加を支える「コミュニティワークこっから」（奈良市古市町、社会福祉法人こぶしの会）で活動中。

最終ページには同じく「こっから」の寺坂早苗さん（35）の「パンがいっぱい（配達編）」、小山冨士男さん（56）の「さかなをおいかけるくぼさん」など入選69作品を集めて掲載している。

1部1200円（送料別）。縦44・5センチ、横29・7センチ。14枚。卓上版1000円も。申し込み・問い合わせは「こっから」、電話0742（63）6765。

「はたらく仲間のうた」カレンダー。右下が中村さんの作品

こっからの商品が 食べられる 9 お店を紹介します

福祉カフェ「カフェ鹿都（ろくと）」

住　　所／奈良市役所内　1F中央棟　総合受付横
営業時間／9:00~17:30
定 休 日／市役所休館日（土日祝と年末年始）

運営は県社会就労事業振興センターで同センターに加盟する奈良市内13の施設が参加しています。軽食や喫茶コーナーを備え、各施設のオリジナル商品と焼きたてパンを販売。

授産品の販売拡大などにつながればと、市が元の授乳室を店舗スペースとして改装しました。こっからのパンは毎週金曜日のお昼から販売しています。

お店の方からは、「こっからのパンは固定のお客さんが楽しみに毎週買ってくれています」「販売と同時にすぐ売り切れていますよ」とうれしい報告をいただきました。

おからかりんとうやクッキーも人気とのことで、市役所に御用の際は、ぜひお立ち寄りください。

ありがとう ございました！

寄　贈

<車いす>

関西遊技機商業協同組合様より介護用車椅子を寄贈いていただきました。

大切に利用させていただきます。ありがとうございました。

<ここに　ノア>

奈良県の平成24年度障害者自立支援特別対策事業にて補助金をいただき、「ここに」で大型車両（トヨタ　ノア）を購入しました。移動販売や外部への実習・仕入れ・外出等に既に活躍中です。大切に使わせていただきます。

ありがとうございました！

こっから設立当初から、送迎バスの運転を勤めていただいた横木さんがこの9月末で退職されました。

朝、こっからに通所すると必ず、バスを磨く横木さんの姿に迎えられました。

こっからの看板を背負って街中を走るバスが汚れていてはいけない。いつでも綺麗な車で仲間たちを送り迎えしてあげたい。

そんな横木さんの仲間や施設を大切に思う心遣いに支えられた10年間でした。

横木さんの最後の乗車日に、仲間主催のお別れ会がおこなわれました。

コミュニティワーク　こっから

施設長　古木一夫様

「お別れの会」から早一週間が過ぎました。

江崎グリコで40年、こっからで10年の勤務を終え、また新しい人生のスタートです。

現役時代、転勤や移動で何回も「送別会」をして頂きましたが、

此の度の「お別れの会」が一番うれしかったです。

仲間たちが時間をかけて準備をしてくれたのでしょう。

そんな仲間たちと、指導された職員の皆さんの気持ちがひしひしと伝わってきました。

一人ひとりがお別れのことばを一生懸命に語ってくれたのが感動的でした。

久実代さんが語りかけたくれたことばの意味が私に伝わりました。

千香さんもそうです。啓君の司会も立派でした。

開所当時乗ってくれていた仲間たちも含めて、初めて満席となった「こっからバス」で

最後の運転。飾られた車内と運転席。とても幸せな一時間でした。

10年間ありがとうございました。

平成24年10月4日

横木　進

居宅 News

Caring home

ぐうぐうハウス・ひまわり・かたつむり

12月28日（金）ふゅーちゃー企画『忘年会』

ふゅーちゃー企画では初の試みで、「仲間忘年会」を実施しました。仲間とスタッフ合わせて26名で、JR奈良駅前にある笑笑の広い個室で楽しい時間を過ごしました。

こッからでは中々会うことのない仲間や、こッから内でも別々の班の仲間同士が、テーブルを囲んで鍋を突いたり、お酒を飲んだりして楽しみました。ある仲間に聞くと「居酒屋に来たのは初めて」、「お酒を飲んで楽しい気分になってきた」など、普段できない体験ができたことを喜んでおられました。

このように大人数で行動したり、何かを楽しみ・時間を共有することは中々得られない経験だと思います。参加した仲間も、スタッフもこの企画によって様々な思いが生まれてきたことでしょう。これからも色々な企画を計画して、仲間の色々な姿を発見していけたらいいなと思いました。（久保　史絵）

日中活動支援 News

Activity support in daytime

パン工房

パン工房の新聞作り

毎月第1金曜日の話し合いの後にオリジナル新聞作りをみんなで作っています。前の月のことを写真を見ながら思い出しつつ、少～しのコメントもおりまぜてカラフルに仕上げていきます。

毎回新聞のタイトルを変えるなどそれぞれのコーナーを上手に使い、個性のある新聞が毎月こッからの壁を飾っています。（ご存知でしたか?）昨年の7月から作り始めて、ずいぶんと手馴れてきた様子です。

始めた当初は先月の事を思い出すところから始まり、かきたい事を選びだすこと、どこにかいたらいいのか、新聞のタイトルは何にするのか、など悪戦苦闘し作っていました。

繰り返し続けていくなかで、そのときの状況や感じたことなどがでてくるようになり、6人それぞれのカラーがでる新聞へと変化してきました。今では新聞を楽しみにしてくれている特定のファンもおられます。仕事のことはいっさい載らない楽しい新聞を皆さん楽しみにしていてくださいね!（狩野　雅子）

第11回

障害者支援事業所
コミュニティワーク

こっから祭

2012年 11月11日(日)

昨年11月11日の日曜日、見事にその日だけ雨というある意味、奇跡的な天候の中第11回こっから祭が開催されました。

屋外ステージには屋根が取り付けられ会場配置も急遽、雨天バージョンに変更。

できる限りの対策を取り、迎えた当日は予報通り、朝から本気の雨…。

それでも、オープニングから、どんどん人が集まって、ふたを開けてみれば例年とほぼ変わらない、来場者750名、出演者・出店団体も含む関係者合わせて今年も1,000名の大盛況となりました。

また今回は、新企画として「こっからの紙漉きはがきで大切なあの人に絵手紙を描こう!!」と「こっからの仲間と歌おう、800人の大合唱」を実施しました。特に「絵手紙コーナー」には小学校・幼稚園からの協力や当日もたくさんの方がワークショップに参加され350枚を超える絵手紙が完成するなど、来場された方々との交流が深まりました。

悪天候にも関わらず、来て下さった大勢の方たちの笑顔に、本当に心から感謝の気持ちでいっぱいになりました。またテントや机などお貸しくださった地域の皆様、ご協賛いただいた100を超える企業や個人の方々、当日お手伝いくださったボランティアのみなさんへ、関係者一同、あらためてお礼申し上げます。

ありがとうございました!!

Topix

9月 2012.9.29~30
きょうされん大会表彰式

10月 2012.10.21
東市まるごと子どもフェスタ

9月 2012.09.30
チャレンジハイク

12月 2012.12.23
クリスマス会

12月 012.12.28
もちつき

1月 2013.01.04
書き初め

1月 2013.01.26
スポーツのつどい

編集後記

東日本大震災から２年が経過しました。現在も岩手、宮城、福島の各県では懸命に復興に向けた取り組みが行われています。未だ３１万５０００人が仮設住宅などで避難生活を送り、福島県では原発事故の影響で帰郷の見通しが立っていません。

こぶしの会は、震災以降、きょうされんを通じて被災地の障害のある人たちへの支援活動を続けてきました。今月も南相馬市の施設への応援に１週間、スタッフが参加してきてくれました。こぶし後援会費の更新時に送らせていただいている缶バッジはその南相馬市の施設で働く仲間が作ってくれたものです。

被災地のニュースの報道量は減っていますが、私たちはこれからもできる支援を続けていきたいと思います。

（古木　一夫）

こちらもご覧下さい
http://kokkara.jp/
・ネットショップ
・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。